市川 禮子名誉理事長にインタビューしてきました！

第４回(最終回)

名誉理事長がこれから取り組んでみたいことはなんでしょうか。

日本の高齢者施設が全て個室になり、ユニットケアができるようになることが大切だと思います。そして私が元気になったら、様々な経験をしてきた話をする機会を持ちたいです。体力があるかどうか分かりませんが、日頃の困っていることや、やってみたいこと、いろんな話を８人から 10 人ぐらいで職員と親しく話をし、アドバイスができたらと思います。それが私の最後の仕事にしたいと思います。

きらくえんの職員にメッセージをお願いします。

元々の国の職員配置基準が悪いので、非常に職員の労働負荷が強くなっています。職員に余裕がないと良いケアはできません。そこのところを国の人たちは分かっていません。だから行政にもっと伝えていくべきだと思います。「尼崎だけでも少し職員配置基準を増やしてください。」等 自治体独自でもできることがあります。

それから良い労働組合になってほしいと思います。黙って我慢したり、言っても仕方ないと思ったり、こんなものかと妥協したりではなく、お年寄りに良いケアをしようと思ったら、自分たちの労働条件を良くしないといけません。一生懸命やるのも良いですが、皆が一緒になって国や自治体を動かし、日本の制度を変えていかなければいけないと思います。私はずっときらくえんで仕事をしていますが、きらくえんだけが良かったら良いと思ったことはありません。日本の福祉を変えていきたいと思っています。だから、毎日の仕事で満足していたのではいけません。仕事をしていく中で、そこから導き出さないといけません。元気を出して職場を変えていくことが、お年寄りの幸せに繋がると思います。自分の仕事場のことも大事だけど、地域全体でどうなのか、国全体でどうなのかを考えていかないといけないと思います。いい仕事をするということは、自分のところのお年寄りに喜んでもらうだけじゃなくて、制度をより発展させるということが必要です。

1983 年にきらくえんに入職。
兵庫県尼崎市、芦屋市、朝来市において特別養護老人ホームを中心にケアハウスやグループホーム、デイサービスやヘルパーステーション等の在宅サービスを多岐にわたり運営してきた。2003 年には、「朝日社会福祉賞」を受賞するなど、徹底して“利用者本位”の実践を続けている。

『80 年、90 年生きてこられた方の大切な最後のステージをどれだけ豊かに暮らしていただけるか。』本当に素晴らしい仕事だと思います。そしてこんな難しい仕事はありません。しかしお一人でも「あぁ、きらくえんに来たからこそ、私はいろんなことが満足できて嬉しかった。」と言って最期を迎えてほしいです。だからこそ本当に心を込めて、対応しなければと思います。高齢者の気持ちは、自分自身が 85 歳になって身に染みて分かるようになりました。若い時には想像できても、実際になった時の苦しさ、しんどさを痛感しています。老いていくということは本当にしんどいです。体はどんどん衰えていくし、頭はボケっとしてくる、思ったように動くことができなくなり、だんだんと生命力が落ちていくようなすごく寂しく、辛い気持ちです。そして昔のことを思い出したり、最期をどう生きようかと考えたり、いろんなことを皆さん思っておられます。それを直接的ではなくても、しっかりと胸に刻み、皆さんが寄り添うことで良いケアになればと願っております。きらくえんは本当によくやってくれていて嬉しいです。

令和６年

お年玉クイズ当選者の発表

新年号のお年玉クイズにたくさんのご応募ありがとうございました。厳選なる抽選の結果、３ 名の方が当選せれました。今回のプレゼントはミャンマーで作られているエコバックでした。今後も皆さまに楽しんでいただける企画をしていきたいと思います。

クロスワード楽しんでしました♪
まさかこんな素敵なプレゼントまで頂けるなんて、嬉しいです。

森本 久美子様
牧村 和子様
大西 敬子様
３名

生れてはじめて当選しました！
こんな可愛いエコバック、大切に使わせていただきます♪

地域合同防災訓練

２月 18 日に、地域のみなさんにもご参加いただき、南海トラフ地震を想定した「地域合同防災訓練」を行いました。
今回は、「喜楽苑」と「地域ケアセンターあんしん 24」で同時に訓練を行いました。

まずは発災から５分間身を守る行動をとったのち、「災害対策本部」を立ち上げます。４つの活動班に分かれ、入居者・利用者・職員の安否を確認し、建物設備やライフラインが機能しない状況の中、安全な場所へ避難誘導するという内容です。うまくいかなかったところもいくつかありましたが、自分たちで考えて行動することの大切さを学ぶことができました。

いつ災害が起こるかわからないからこそ、日頃から訓練することが大切です。これからも「みんなで助かる」を目標に、福祉避難所として地域のみなさんと一緒に取り組んでいきたいと思います。

ヘルパーのお仕事
「同行援護」編

クラシックコンサート鑑賞 IN 神戸

訪問介護事業には、視覚障がい者の外出を支援する「同行援護」というサービスがあります。付き添う職員は、「同行援護従事者」という資格をもつヘルパーです。

３月 22 日（金）神戸新聞松方ホールで行われた「中山・KLC クラシックコンサート」に全盲の利用者と出かけました。視覚障がい者への支援を行う「公益財団法人中山視覚福祉財団」主催のコンサートです。「みえない人・みえにくい人・みえる人・いい所に音楽を！」をコンセプトに、出演者も視覚障害等の障害があり、演奏者として活躍する方々です。

神戸の会場までは、バスや電車を安心して利用していただけるよう支援し、会場ではヘルパーがパンフレットの代読や楽器の説明をします。盲目のバイオリニストディオの「わおん」さんが、プッチーニのオペラ「ある晴れた日に」を演奏し、ピアニストの西村由紀江さんとの協奏もありました。ヘルパーは、舞台でどのように演奏しているかを想像できるよう情景を言語化し、奏でる音が立体的に感じられるよう情報を伝えます。

最後は会場全体で「ふるさと」を唱和し、みんなの心に温かく響く音楽を楽しめたイベントでした。視覚に障がいのある人の支援で大切なことは、その方の目の代わりとなって、入ってくる様々な情報や周りの情景をわかりやすく伝えることです。利用者の感じたことを一緒に共感・共有することも大事な支援です。

最近では、ショッピングや落語、様々なイベント等、ヘルパーの同行で楽しまれています。これからも利用者が行きたい場所に安心して外出できて、楽しみや生きがいを感じられる、「その人らしい充実した生活」が送れるよう、支援させていただきます。

「素晴らしい演奏やった。楽しかった。 次は花を見に行こうね！」

ぜひ、おともさせていただきます！